2024 Reading and Writing 2A（田中）

【要約課題】Chapter 6-1 (p.32)

提出期限：7月16日（火）23:59

|  |  |
| --- | --- |
| 氏名 | 学籍番号 |
| 栗山淳 | 8223036 |

＊Chapter 6 (p.32) の各段落の要約を書きましょう。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 段落 | 行数 | 要約 |
| 1 | ll.1-3 | ロンドンでチャールズ3世が戴冠し，これは英国市場70年間で最大の儀式であった。戴冠式は新し時代にふさわしい君主制を示すものであった。 |
| 2 | ll.4-7 | チャールズ3世はウェストミンスター寺院で王冠を戴冠した。この戴冠式には約100人の世界の指導者が参加した。 |
| 3 | ll.8-11 | 英国がEU離脱後の混乱の中で世界的な地位を維持するのに苦労する中，王室支持者は王室が国際的な地位と外交を提供していると主張している。 |
| 4 | ll.12-16 | スナク首相は戴冠式を称賛したが，戴冠式は生活費の危機と国家の役割に対する国民の懐疑の中で行われた。 |
| 5 | ll.17-19 | チャールズ皇太子はエリザベス女王の死去後，英国及び他の14地域の国王となった。 |
| 6 | ll.20-23 | 土曜日のイベントはエリザベス女王の戴冠式よりも小規模であったが，壮観なものであった。 |
| 7 | ll.24-30 | チャールズは英国国協会を公に統治し擁護することを誓い，聖油を注がれた。象徴的なレガリアを送られた後，王冠を頭に載せられた。 |
| 8 | ll.31-32 | ロンドン塔を始めとする様々な場所で祝砲が発砲された。 |
| 9 | ll.33-37 | 礼拝後，チャールズとカミラ夫妻は雨の中，何万人もの人々が見守られ，バッキンガム宮殿へ向かった。 |